684
378

日本文化講義速記

東西文化の融合と國運の發展

出淵勝次著

0000048000

0000048-000

６８４－３７８

東西文化の融合と国運の発展

出淵勝次・著

新潟医科大学

昭１２

AAB

6
37

出淵勝次述

日本文化講義速記

東西文化の融合と國運の發展

出淵勝次述

日本文化講義速記

東西文化の融合と國運の發展

昭和十二年一月十一日

684
378

本書は昭和十一年九月二十八日本學に於ける出淵勝次氏の「東西文化の融合と國運の發展」と題する日本文化講義速記を同氏の訂正補筆を經たる上更に文部省の承認を得て上梓したるものなり。

昭和十二年一月

新潟醫科大學

東西文化の融合と國運の發展

出淵勝次述

只今學長から御話になりましたことを拜聽しまして、私の本日の講演の根本的意味合は既に盡されて居るやうに考へるのであります。私が遙々東京から當新潟迄出て參りましたのは、文部大臣の代辯をする爲ではなく、私一個の所見を未來の日本國を背負つて立つ學生諸君に申上げやうといふ考に外ならぬのであります。どうぞ左樣御承知を願ひます。

こゝに演題を掲げてありますが、私は日本の發展といふものは、日本固有の文化に加ふるに、西洋文化を以てした、此の一言に盡きて居るものと確信して居るのであります。其の見地からして、本日は東西兩文化の融合に依つて、大日本帝國を益々大ならしむることは、吾々の義務であると云ふ事に付て御話を申上げたいと思ふのであります。時間は二時間といふことでございますが、折角參つたことでありますから或は少し脫線をして多少長くなるかも知れませぬ。其の點は豫め御諒承を願ひます。

先づ總論の意味合を以て一言申上げて置きたいことが御座います。我が日本國は私から此の席で申上

げる迄もなく、非常に古い國であります。吾々は近く四年後に皇紀二千六百年を祝するといふ場合になつて居るのであります。上には恐れ多くも萬世一系の皇室を戴き、七千萬の同胞は眞に一家族の如く協同一致して居るのであります。義は君臣にして情は父子といふことは、極めてよく我が國體を現はした言葉であらうと思ふのであります。此の世界に比類のない所の國體を有ち、さうして世界に比類ない所の古い國家を吾々は形ち造つて居るのであります。我國は此の如く古い國であるのみならず、文化に於ても古來頗る發達して居る國でございます。此のことに就ては他日諸君はそれ〳〵專門の學者より御聞きになる場合もありませうが、私は茲にホンの一、二の實例を擧げて見たいと思ふのであります。

一つはあの法隆寺といふ木造の寺であります。あの寺は今より千三百年前に造られた寺でありますが今日迄依然として昔の面影を存して居ります。加之法燈が曾つて消えたことがないのであります。又其の後奈良朝時代に造られた所の正倉院といふ建物がありますが、此の正倉院の中には聖武天皇の御物三千點、今以て昔の儘に保存されて居ります。其の中には獨り我が國の美術品のみならず、古代の西洋文化を傳ふるところの貴重なる美術品も澤山あるのであります。世界廣しと雖千年以上の建物に斯く多數の古代東西兩文化を傳ふる品物を保存して居る場所といふものは何處にもないのであります。

斯の如く我が國は古い國で、然も文化の進んだ國でありますが、同時に他の點から見ますと、極めて若い國であります。即ち國を開いてから僅か八十餘年に過ぎないのであります。然るにも拘らず今日我

が日本國といふものは、世界の三大國の一つと呼ばれ、有ゆる點に於て大なる躍進を爲しつゝあるのであります。此の躍進日本の姿といふものは、內に於て之を見る場合よりも外から見た場合に於て、一層はつきりと分るのであります。然らば此の躍進日本といふものは如何なる歷史を經て今日に至つたかと云ふことを靜かに考て見まするに眞に萬感交々起るといふ次第でございます。時間の都合上極めて簡單に二、三の實例を申上げますれば、我が國が諸外國と通商條約を結んだのは、安政五年であります。それは不幸にして不平等條約でありまして、眞に對等の地位を恢復したのは明治四十四年であります。換言すれば安政五年から五十三年の長い間吾々日本國民は今日の支那人の如く不平等條約に依り縛られて居つたのであります。また文久三年から明治八年まで十二年の間橫濱にイギリス、フランスは各々一千五百名の軍隊を駐屯せしめて居つたのであります。それから文久三年にはイギリス其の他の聯合國艦隊が下關砲台を砲擊し陸戰隊は一時之を占領し三百萬弗の賠償金を取つて事件を解決した例があります。又同じ年に生麥事件の報復としてイギリスの軍艦が鹿兒島を砲擊して町の大半を灰燼に歸せしめた事實があります。今日の日本といふものは世界に於て押しも押されもせぬ大國になつたのでありますが、八十年の事蹟を見ますと、我々は殆んど支那と異ならざるやうなありと有ゆる屈辱をなめたのであります。

そこで今日世界の人々は此の躍進日本をどう見て居るか、と申しまするに、日本は非常に古い國であると云ふことから、その古さに憧れ古い文化を探究せんが爲に、日本に關する研究を進め、或は續々各

種の團体を派遣するといふ狀態でございます。然らば新しき日本に對しては、どういふ感じを有つて居るかといふと、之は憧れではなく、眞に尊敬を拂ひ、中には尊敬を通り越し寧ろ恐怖の念を有つて居る向もあるのであります。その結果世界各地に於て、我國に對し色々な批判を聞くのでありますが、其の批判の中には尤もと思はるゝものあると共に甚だ不當なものもあります。兎も角昨今世界各方面に於て我が國に對する批判を聞くのでありますが、之は要するに『喬木に風强し。』と申す譯で吾々は東西南北より强い風に吹かれながら、亭々として青空に聳えつゝある喬木の如きものであります。之は今日の國際日本の姿であります。そこで吾々は世界が斯の如く尊敬し、又は恐怖の念を以て見て居る所の此の日本國といふものは、如何にして生れて來たものであるかといふことを考へることが必要であります。世の中に溫故知新といふことがありますから、私は之から如何にして躍進日本なるものが出來上つたかと云ふことに就て少しく申上げて見たいと思ふ。

極めて短期間内に日本國を大ならしめたる原因は多々ありますが、私の見る所では二つの主要なる原因があると確信して居るのであります。其の第一は先刻も申上げました通り、吾々日本國民は皇室を中心として、一家の如く團結して居り、皇室といふものは常に指導精神の源泉となり、我々國民は其の指導精神の源泉卽ち聖旨を奉體し常に擧國一致有ゆる場合に於て奮鬪努力して來たと云ふことに在るのであります。その第二は先刻も擧長が申されました通り、吾々は廣く世界の長所をとつて、そうして我國の進歩發達を計つたと云ふことに在るのであります。昨今我が國に於ては國民的意識と云ふものは非常に高まりつゝあるのであります。國民的意識の高まるといふことは結構と申すよりも、寧ろ當然であります。また旺んに日本精神なるものが高唱せられて居りますが、日本精神と云ふものは高唱するまでもなく、吾々日本國民が當然有つて居るものであります。此の日本精神が高唱せられ、國民的意識が高まると共に、その反面に於て甚だ遺憾ながら唯我獨尊の空氣が蟠り其の結果として西洋文化を輕視し、西洋人を侮蔑し、獨り自分だけが偉い、斯ういふやうな一つの陶醉氣分が高まりつゝある樣であります。私の見る所では所謂獨りよがりと云ふことは今日の時弊の一つではないかと思ひます。本日私は此の演題を掲げて諸君に西洋文化吸收の必要を訴へんとするは時弊に顧て默することが出來ない爲であります。今日は日進月歩の世の中であります。吾々日本國民は今日の小成に甘んじて己を高しとするが如きことがあつたならば、國家將來の發展上に甚だ憂ふべき結果を齎らしはしないかと、竊に心配して居る次第であります。以上私の申上げましたことは本日の講演の所謂總論であります。

○亞細亞大陸文化の吸收

是から各論に入つて、第一に吾々日本國民が亞細亞大陸から文化を吸收した所の歷史を極くざつと申上げて見たいと思ひます。私は諸君に歷史の講釋をするのではありませぬが、神功皇后が三韓を征伐せ

られてから、支那の文化は朝鮮を經て日本に參つたのであります。欽明天皇の十三年に百濟王は佛像及經文を我國に献上し、佛法始めて我國に傳はり藝術が玆に進歩を見るに至つたのであります。其の後推古天皇の時代に隋との間に國交を開いて、そこで支那の文化といふものは直接我が國に入るやうになつたのであります。唐の時代となり我が國と支那との交通は愈々盛んになつて、唐の進んだ文化といふものは我が國に入つて、それが土臺になつて、彼の大化革新といふものが出來上つたのであります。其の後我が國は朝鮮半島に於て唐と衝突して一時交通が杜絶しましたが、天智天皇の時代になつて、再び唐との交通を恢復し、且つ朝鮮から手を引き專ら内治に意を須ゐました爲我が國の文化といふものが一段の進歩をして、奈良朝時代に至り燦然として光を放つに至りました。彼の古事記が作られたのも、日本書記が作られたのも此の時代であります。和歌も盛んになり、建築も立派になり、彼の世界を驚かして居る正倉院も奈良の大佛も此の時代に出來たのであります。平安朝になつてから、漢文學の方は段々衰へ、同時に平假名、片假名といふものが發達し、そうしてこゝに始めて日本の特色ある所の文化が起つて來たのであります。此の平安朝時代に諸君の御承知の如く、古今集が選ばれ、清少納言の枕草子も出て來れば、又紫式部の源氏物語も出て來たのであります。源氏物語の如きは今日英文に譯され、世界に於て廣く讀まれて居ります。今から九百數十年前に紫式部といふ女史が極東に於て靈筆を振つたと云ふことは正に西洋人を驚かして居るのであります。實際にその時代西洋には紫式部のやうな女性の文學家

といふ者はなかつたのであります。それから降て鎌倉武家時代になると、學問は僧侶や公卿の仕事となり美術も力の表現たる、武具のやうなものが流行つたやうであります。足利時代に入つても文學の發達は遲々たるものがありましたが佛法並に美術といふものは次第に進んで參りました。其の後德川家康が關ヶ原の戰ひで天下を統一して江戸に幕府を開いてから、所謂江戸時代といふものが現はれ、明治維新まで二百六十五年間の泰平に依り文學、美術何れも非常に進歩したのであります。殊に寛永十三年以來二百年餘りといふものは、鎖國の狀態となつて居つた爲に、外國との交通は絶えたが、此の間に日本の文化といふものは、次第に圓熟して、精神的にも物質的にも偉大なる發展を見るに至り彼の元祿、文化文政時代といふものを招來し漢文學も、國文學も共に進み、國史及び古典の研究熱も高まり、大義名分論に依る尊皇論も各方面に高まつて、こゝに明治維新といふものを現出せしめたのであります。兎に角德川時代の鎖國に依て西洋文化を吸收することが中絶しましたが、此の間に我が國の文化が圓熟して、明治維新後に於て西洋文化を取入れ之を咀嚼する丈けの基礎工作が出來たといふことは、我が國にとつて甚だ幸福なことであつたと思ふのであります。明治維新になつて、御承知の通り西洋から有ゆる新知識を吸收して、庶政の改善を圖り、玆に現代日本と云ふものは生れたのであります。而して西洋から吸收した知識が我國體を基礎として政治的に現はれたのは、立憲政治であることは此の機會に特に申上げて置きたいことです。

○西洋文化の吸收

次に我國は如何にして西洋文化を吸收したかと云ふことに就て、大體の御話を申上げたいと思ひます。之は便宜上二つに分けて先づ以て安政開國前について極くざつと申上ぐることに致します。吾國が西洋文化に接したのは割合に遲いのであります。御承知の通り葡萄牙の提督ヴアスコ、ダ、ガマは一四九八年に喜望峰を廻つて印度洋に來る航路を發見したのでありますが、其の結果として一五一〇年にアルブケルク提督は印度のゴアを占領した爲葡國人は此處を基點としてマラッカ海峽を越えて極東に進出し、一五一七年には遂に廣東を中心として南支に於て商賣を始めたのであります。此の關係からして葡萄牙人は天文十二年即ち西曆一五四三年に大隅國の種子島に漂着し、西洋の鐵砲といふものを吾國に傳へたのであります。當時我が國は群雄割據時代であつた爲、此の新しき武器といふものは各方面から非常に珍重せられ、それからして葡萄牙人は我が國に段々武器其の他の品物を供給することゝなり、同時に始めて西洋文化なるものが我國に入つて來たのであります。宗教方面について申しますれば、天文十八年即ち西曆一五四九年に始めてゼズイツト教のザヴイエールといふ秀れた宣教師が鹿兒島に上陸して、二ケ年半の間に平戸、山口、京都に至る各方面に布教して、多數の天主教信者を作つたのであります。所が其の後我が國に參りました宣教師同志の間に宗教上の競爭が起り、同時に佛教徒間の反感も高まりキリスト教排斥の空氣が起つて、遂に寛永十三年に鎖國を斷行することゝなり、葡萄牙人の如きも長崎の出島といふ三千九百坪許りの所に押しこめられ間もなく追ひ出され、和蘭人が之に代つたのであります。和蘭人の我が國に來たのは西曆一六〇〇年でありますが、實際商賣を始めたのは慶長十三年即ち西曆一六〇八年でありまして、最初平戸に和蘭商館といふものを造つたのであります。ところが和蘭人は天主教徒でないため割合に歡迎され、葡萄牙人と入れ換に出島に商館を設けることになりました。そこで我が國は鎖國中も此處で外國と通商をし三千九百坪の小さな窓戸から西洋文化の淡き光を取入れて居つたのであります。諸君の研究をして居られる醫學から申しましても、元祿三年出島和蘭商館の醫官として來たところのケンフェルが西洋醫術を我が國に傳へたのであります。次て文政六年に均しく和蘭商館の醫官として來たジイボルトが醫學其の他有ゆる進んだ西洋の學問を紹介した功績は吾々の記憶すべきことであります。和蘭人に次でイギリス人も我國に參りましたが、イギリス人の活躍といふものは極めて短期間でありまして、詳しく申上げますと、平戸にイギリス商館を造つたのは西曆一六一三年から一六二三年までの僅か十年に過ぎないのであります。隨つて開國以前にイギリス人を通して西洋文化を取入れたといふことは殆んどないと申しても差支へない位でございます。唯當初一六〇〇年に和蘭の船に乘つて來たウイリアム、アダムス(三浦安針)が航海術、數學等を傳へたといふに過ぎないのであります。

以上は安政開國前の狀況の大要であります。

所が其の後嘉永六年に亞米利加からペルリ提督が來て浦賀沖に現はれ、茲に始めて吾々が米國を通して西洋文化といふものを大規模に取入れる所の端緒が開けたのであります。ペルリが嘉永六年に來ました際には、幕府に於て容易に談判に應ずる樣子がなかつた爲に一先づ引返しまして、明くる年即ち安政元年に今度は神奈川沖に現はれ相當强硬なる態度を示しました。そこで幕府も遂に折れて、こゝに始めて日米間に和親條約十二ヶ條が調印せられ、日本國は國際團体の仲間入をすることになつたのであります。我國は前にもお話した通り、長崎の出島を通して幾分西洋文化と云ふものに接して居たのでありますが、此のペルリの來訪に依り、眼の當り西洋文化の姿を見て驚いたのであります。我國が二百年間鎖國の夢を貪つて居る間に西曆一七六九年には御承知の通りワットといふ人が蒸汽機關を發明し、フルトンといふ人が之を船に應用したのは一八七〇年、それから一八三八年には蒸汽船は大西洋を横切つて居ります。また此の蒸汽機關を汽車に應用したのはステフエンソンと云ふ人であり、一八三〇年には英國のリヴアプール、マンチエスター間に鐵道が開通して居ります。電信機を發明したのはモールスと云ふ人であつて、それは一八三七年でありますが、六年後にはイギリス、フランス間の海底電線が敷設せられて居ります。歐洲に於て斯る新發明が起り、世の中が急速に進歩しつゝあつた際、我日本國は眠つて居たのであります。ところがペルリが神奈川條約を調印する際持つて來た色々の土產物の中に汽車の小型なものと、電信機械とがありました。此の汽車を横濱海岸に敷いて二十哩位の速力で、幕府の役人二三人を乘せて走らせ、また電信線を海岸から談判所まで敷いて現實に通信をして見せた爲、頑迷なる幕府の役人も此の實物敎育に依り西洋文化の威力に驚いたのであります。そこで先覺者の中にはどうしても世界から知識を求めなければならぬといふやうな考を起すものがポツ〳〵出て來たのであります。アメリカは安政元年に和親條約を結び、引續き安政五年に通商條約を結びましたが、安政六年には早くもフルベツキ、ウイリアムス、ブラウン、ヘボンの四人の有力なる宣敎師を日本に送つたのであります。殊にその中にあるフルベツキと云ふ人は明治の始めに我が帝國大學の基礎を造り、敎育の發展に貢獻して居り、またヘボンは醫療布敎の傍慶應三年に和英字典を造つて英語の普及に力を盡し、彼のヘボン式のローマ字綴の如きも此の人が考出したのであります。明治維新後に於ける敎育施設も範を米國に取つたものは尠くありませぬ。明治五年に學制が頒布せられましたが、之は佛蘭西式に劃一的に出來たのでありますが、同時に發せられたる小學敎育令だけは、アメリカ式に則つたのであつて、殆んどアメリカの小學校敎育令を飜譯したやうなものでありました。また明治六年から十二年迄アメリカ人のデビイド、マレイと云ふ人が文部省の顧問となり、總てアメリカ式の遣方を取入れたといふ事實があるのであります。又明治五年アメリカ人のスコットといふ人が東京師範學校を創立したことも注意を要するのであります。それから學問の方では明治十年にモールスといふ生物學者が帝國大學に參りましたが此の人は始めてダーウインの進化論を我國に傳へました。それから明治十一年にはフエノロサは帝國大學の敎授と

なり哲學を教へながら日本美術の尊重すべきことを唱道しました。當時二束三文で貴重なる美術品が海外に渡りつゝあつたのでありますが、フエノロサは之に對し警鐘を鳴らしたのであります。その外學界に貢献した米國人は數え切れない位澤山にあるのであります。之と同時に宣教師も續々日本に乘込んで來まして、獨りキリスト教の布教のみならず、教育及び社會方面に活動したことも見逃すべからざる事實であります。此の如くアメリカの方面から多くの學者宣教師が我國に參りましたが同時に日本側からもアメリカに行つた人が澤山にあります。古い時代には土佐の漂民中濱万次郎が天保十二年に米國船に救はれてアメリカに行つて學問した有名なる事實があり、次で先刻申上げましたペルリが安政元年に和親條約を調印した際に、吉田松陰先生が暗夜に乘じてアメリカの軍艦に投じて西洋に出掛けやうとして失敗し遂に牢に入れられたことがあります。先生は其後鄉里の萩の城下に松下村塾を設け、明治の元勳たる伊藤博文、山縣有朋等を教育したのであります。先生が米艦に乘込まんとせる當時用意して居つた『夷に投ずるの書』の中に、斯ういふことが書いてあります。

『終身奔走東西三十度南北二十五度の外に出でず。是を以て長風に駕し、巨濤を凌ぎ、電走千萬里、五大洲を隣交としたし』

吉田松陰先生が八十二年前而も我が國に於て排外運動の極めて猛烈な時代にあつて、斯の如く偉大なる希望を懐き、知識を世界に求むる爲に、夜陰に乘じてアメリカの軍艦に投じやうと考へたことは實に偉いと思ひます。其の後萬延元年に咸臨丸といふ小さい軍艦が新見豊前守一行を護衛してアメリカに行く際明治の先覺者たる福澤諭吉先生が之に乘り込み米國の進んだ文化を日本に齎らしたことがあり、元治元年には新島襄先生が函館からアメリカの船で逃れボストンに於て學問して歸つて來て同志社を造り新しき文化を我が國に普及せしむることに力を注いで居る。明治三年には故人となられた目賀田種太郎氏、神田乃武氏等は政府の留學生として米國に出掛けられ、それから明治四年には驚くべきことには八歳から十五歳までの五人の娘達が、海を越えて知識を求むる爲にアメリカに留學せられたのである。其の五人の娘達の内で一番若かりし人は後日津田梅子女史となりて、我國の女子教育に貢献せられ、一人は陸軍の元老であつた大山大將の奥さんになり、今一人は海軍の元老である爪生大將の奥さんとなつたのである。即ち我が陸海軍の元老の奥さん方はアメリカで學問をして内助の功を發揮したといふ譯であります。それから明治八年には外交界の元老である小村壽太郎氏、前文部大臣鳩山氏の御父さんで當て衆議院議長たりし鳩山和夫氏等が留學生としてアメリカに出掛けられて居る。實際最近まで我國の政治其の他の方面に於て大なる功績を擧られた人々の内アメリカに於て學ばれた方は尠くないのであります。次にスポーツに付ても日米兩國は密接なる關係を有つて居ります。我が國は今日アメリカに亞ぐ世界に於ける野球國でありますが、之は明治の初年に米國から傳はつたのである。私も小學校生徒の時に已に野球を致して居ります。それから最近に至り活動、ラヂオ、ネオンサインと云ふ樣な結構なものも

不結構なものもアメリカから來て居ります。昨今我が國に於て西洋文化を呪ふ聲を聞きますが、私の如き西洋文化の吸收を唱道する者でさへも、我が國の一部に於て餘り西洋かぶれするもの〻多きことを痛感して居るのであります。あなた方の中には東京の銀座といふ所を御承知の方もありませう。夜の十時頃に銀座を散歩して見ると、制服を着た學生が酒氣を帶びて、怪しげな女性と歩いて居るのを屢々見掛けることがあります。ネオンサインの光りに照らさるゝ斯る光景は、アメリカの三流、四流の都會の夜を思はせらるゝのであります。國體明徵や日本精神の高唱せらるゝ帝國の銀座に於て、斯る光景を見ることは誠に痛嘆に堪えない。此の大學の學生諸君には恐らく制服で酒氣を帶び妙な恰好で散歩せらるゝ方はなからうと思ひます。（笑聲）

以上は米國より西洋文化を吸收した模樣でありますが、次に歐洲から如何にして文化を吸收したかといふことを申上げます。維新以後に於て我國が西洋文化を吸收したのは決してアメリカからばかりではありません。イギリスからも、フランスからも、獨逸からも吸收したのであります。イギリスからは專ら工業方面の知識を吸收し、又軍事に於ては海軍は範をイギリスから採つたのであります。我が國の海軍が今日を爲すに至つたのは、イギリスのお蔭であることは何人も異存がなからうかと思ふ。有名なる東鄕元帥も昔イギリスの海軍に於て學ばれた事實があるのであります。それからフランスからは專ら法律方面に就て知識を吸收したのであります。明治の初期に我が國はボアソナードといふ法律家を佛國から傭聘して色々な法律の編纂に與らしめたのであります。陸軍も最初はフランスから範を採り、後に獨逸から學んだのであります。次に獨逸でありますが、獨逸はアメリカに亞いで最も多く西洋文化を吾々に供給した國であります。陸軍は只今申上げたやうに最初はフランスから學んだのでありますが、後には專ら獨逸から學びました。彼の有名なるメッケル少佐の如きは、隨分我が國の陸軍に貢獻する所大なるものがあつたのであります。法律に付きましても、第一に我憲法は獨逸の憲法を參酌した點が尠くないのであります。民法は當初フランスから範をとつたのでありますが、後に獨逸の法制を取入れて成案を得たのであります。商法は殆んど獨逸から採つたのであります。學問に付ても、各方面に於て獨逸から學んだのでありますが、就中哲學に就てはケーベル博士の如きは、新知識を供給したのであります。諸君の學んで居られる醫學に就ては我國は大に世界に誇るべきものがありますが、元をたゞせば之も獨逸に負ふ所大なるものがあります。先刻お話申上げた通り明治維新前には我國は和蘭から醫學を取入れたのでありますが、其の實和蘭本は多く獨逸本の飜譯であり、又和蘭商館附として醫學を廣めたケンフェル、ジーボルドは何れも和蘭人ではなく、獨逸人であつたのであります。そういふ譯から我が國は明治維新後專ら獨逸から醫學を取入れる腹であつたが、明治初年イギリス公使のパークスが運動して英國公使館附醫官のウイルスを我が國の醫學校に入れた爲、獨逸人を入れることは一時進行しなかつたが、明治四年に至り始めて獨逸から陸軍軍醫ミュルレル、海軍軍醫ホフマンを大學教授に入れ、茲に獨逸から醫學

を取入れる端緒が開けたのであります。尙ほ明治三年には我國から醫學者を獨逸に留學せしむることゝなり、彼の藥物學の大家であつた長井長義、其他山脇玄、佐藤進、池田謙齋等十數名が選拔せられました。次で明治九年には彼の有名なるベルツ博士が參りました。同博士は我が國の醫學並に醫術進歩の爲に大なる貢獻をして居るのみならず、畏多くも大正天皇が御幼少の砌御弱かつたのでありますが同博士の治療に依り御健康を恢復遊ばされたといふ事實もあります。斯ういふ次第で歐洲大戰迄は軍事にせよ、法律にせよ、醫學にせよ吾々が獨逸から學んだ所が非常に多かつたのであります。私は明治四十年から四十三年迄大使館書記官として伯林に在勤し、歐洲大戰後初代の帝國代表者として再び伯林に參りましたが、明治四十年頃には法律家も、文學者も、醫學者も、軍人も澤山伯林に居つたことを記憶致して居ります。之を要するに大體明治の前半に於ては我國は西洋文化を專ら米國方面から吸收し、明治の後半から歐洲大戰迄は多く獨逸から吸收した次第であります。從つて日米文化關係が密接であつたと同じ如く、日獨文化關係も緊密であつたといふことは、吾々の常に記憶に存すべき所であります。

西洋文化は以上申述べました通り當初專ら米國から、次で歐洲就中獨逸から來つたのでありますが、我々は支那からも西洋文化を吸收した事實のあることを特に諸君に申上げて置きたいと思ひます。先刻御話致しました通り、葡萄牙人が十六世紀の始めに廣東に乘り込んで支那と交際を始め、之に次で和蘭、イギリスも支那と通商を始め殊に英國の如きは十九世紀の始めに阿片戰爭の結果支那との間に南京條約を結んで上海その他五港を開かしめた關係上、上海を中心として支那との間に密接な交通をし、同時にアメリカも南支方面に於て通商を始めたのであります。從て支那は我國よりも早く西洋文化に觸れ、世界歷史にせよ、博物にせよ、其他百般の學問が傳はり、自然支那語に譯された西洋の本も澤山あつたのであります。然るに明治維新直後に於ては、吾々の先輩は外國語の知識が乏しく、反對に漢學の素養があつた爲支那人の譯した西洋の本を支那から取入れ、之に依り西洋文化を吸收したのであります。彼のアメリカ人のホイートンの書いた國際法の如き萬國公法と漢譯せられ、支那で出版されたが、その本は明治十年代まで、我國の政治家に愛讀されて居つたのであります。バイブルの如きも最初は支那語に譯されて居り、明治維新後日本譯を作る際支那譯を參照したといふ事實もあるのであります。又佛敎の如きも日本に梵語の讀める人がない爲、我々の先輩は漢譯されたものに依つて佛敎を學んだのであります。斯ういふ譯でありまして、明治維新後暫らくの間といふものは、我國が支那を通して西洋文化を吸收したといふ歷史があるのであります。

○西洋文化陶醉時代

安政元年ペルリが神奈川に來て日米間に和親條約を結んだ當時には、吾々の先輩は眞に開國に目覺めたのではなく、ペルリが數艘の軍艦を率ゐて如何にも偉い權幕を示した爲、不承々々に門を明けたと云

ふに過ぎなかつた。我國が眞に開國に目覺めたのは實は明治維新以來であります。明治大帝が神前に誓はれた五箇條の御誓文の一に『智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ』といふ仰せがありますが、之に依り始めて開國進取といふ方針がハッキリと決まつた次第であります。それ以來庶政改善の爲西洋文化といふものが盛に取入れらるゝことになつたのであります。然るに先刻も學長の申された通り此の取入方は如何にも急激であつたのであります。あの當時には西洋文化といふものは何も彼も珍らしく且つ偉く見えたのです。今まで籠の外に乘つたことのない人が、汽車が二十哩の速力で走るのを見、また電信といふものを見て、全く吃驚仰天したのであります。從つて一にも文明開化二も文明開化と云ふ有樣で、甚だしきは日本人の身體が小さいから人種改良の爲西洋人と結婚せよと主張した人もある位であります。それから能く云はれることでありますが、鹿鳴館時代と云ふものも參つたのです。東京帝國ホテルの隣りに今以つて現存して居る元の華族會館の建物は明治十六年十一月に出來たのでありますが、當時之を鹿鳴館と稱え今日で申せば先づ倶樂部とも云ふべきものであつたのであります。其處で政府の大官連は奥さんに洋服を着せ西洋料理を喰べさせ、共にダンスをしたといふことです。之は條約改正をするには日本人は西洋人のやることは何でも出來ると云ふことを見せる意味合もあつたそうです。此の鹿鳴館時代に一つのエピソードがあります。それは明治二十年四月二十日に總理官邸で假裝舞踊會があつて、翌日の午前四時迄も踊り拔いたことです。當夜總理大臣伊藤博文さんはヴェニスの貴族の風を裝ひ、内務大臣の山縣大將は昔の騎兵隊長の着物を着、陸軍大臣の大山大將はチョン髷に大小を帶し、井上外務大臣は三河萬歳の風をしたと云ふことです。兎に角當時の文武百官が西洋人の眞似をし妻君に洋服を着せダンスをやらせたと云ふことは驚くべきことで西洋文化を罵る人はそういふ方面を指摘するのであります。また當時森有禮といふ有名な文部大臣があつて、ダンスといふものは男女交際の爲に必要であるからと云ふて大學生と女子師範學校の生徒にダンスをやらせやうと計畫し(笑聲)物議を醸して止めたことがあつたそうです。兎に角その當時には非常に西洋かぶれをして、國を擧げて西洋文化に陶醉して居つた譯であります。然し先刻學長の申された通り、我々日本國民は決して心配するに當らない國民であります。歷史を御覽になるとお分りになる通り、日本國民は時々行き過ぎるが、或る所でチャンと踏止まると云ふ長所を有つて居ります。それは吾々の國民性であります。只今お話した鹿鳴館時代の如きも一時は如何にも不体裁を演じたのでありますが、明治二十二年頃になると、そろ〳〵反動狀態が起つたのであります。先刻申上げましたベルツ博士の如きは明治二十二年四月二十七日の日記に『本日上野に於て赤十字三週年を祝す。婦人連の日本服著しく增加したるを見愉快なりき』と書いてあります。此の日記に依つて見ても其の以前に日本婦人といふものは洋服許り着て居つたことが分るのです。兎に角明治二十二年頃からそろ〳〵東京の上流婦人仲間に日本服が流行し出して來、それから明治二十三年になつて、敎育勅語が渙發せられ、茲に始めて敎育に對する根本方針といふものがハッキ

リと定まり、西洋崇拜の念も段々下火になつたのであります。其の中に日清戰爭といふものが起つてダンスといふやうなことをして居る場合ではないから、擧國一致戰爭に從事し、日本精神に目覺める樣になり、國民は餘程確かりとして來たのであります。ベルツが日清戰爭後に論文を書きましたが其の中に日本は不消化な米國思想に煩はされたが、日清戰爭後皇室の威嚴高まり從來の模倣減り、米國カブレも直り、國民的意識高まるに至つたと述べて居ります。ベルツの批評の當否は別として日清戰爭といふものは、我國民の思想上に偉大なる影響を與へたことは事實であります。此の國民的意識の擡頭は次第に西洋文化に對する崇拜熱を減じ外國敎師も追々追出さるゝ樣になつたのであります。

○現代日本の發展と西洋文化の影響

我國は最近八十年間に偉大なる發展をし、世界の驚嘆する所となりました。其原因は多岐多端であるが要するに西洋文化の吸收に負ふ所、大なるものがあります。第一は皇室中心主義の立憲政治を確立したことである。之は特に諸君に申上げて置きたい。我が國は世界に例のない國體を有つて居りますが、特に世界に比して極めて顯著な事實があります。それは七千萬同胞は單一なる人種で單一なる言葉を話すと云ふことである。實際斯ういふ國は世界にないのであります。アメリカは世界に於て强大なる國でありますが澤山の人種から成立つて居ります。獨逸種も黑人も千萬人以上居ります。血は水よりも濃しといふ言葉があるも米國はアングロ、サクソンのみから成立つて居るものではありませぬ。紐育の伊太利人は羅馬に居る伊太利人の數よりも多いとも謂はれて居ります。之に比べて見れば北は北海道から南は九州まで單一の人種が住んで居り、發音は多少違つても、單一なる日本語の通ずる我國は誠に仕合せなものであります。我々は斯ういふ有難い國に生れて居るものでありますが、歷史を遡つて見れば鎌倉時代から武家が政治を擅にし、殊に德川時代には幕府は一般人民から自由を奪ひ、勝手氣儘な政治を行ひ、萬事形式に流れて國力が次第に衰へて來たのであります。所が明治維新になりまして五箇條の御誓文に『廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決スヘシ』とある聖旨に基き明治八年に元老院を設け立法參與の途を啓き、明治十一年には府縣會を開き地方に議會政治布かれ、明治十四年に至り明治二十三年を以て國會を開くといふ大詔が渙發されて茲に立憲政治の大方針がハッキリと定まり、それから伊藤博文公が歐米に出張して廣く世界各國の憲法を研究し、其結果我が國體を根本として西洋の憲法を參照して、明治二十二年の紀元節に千古不磨の大典たる憲法といふものが發布を見るに至り翌る年の十一月に始めて國會が開かれたのであります。茲に始めて國民が政治に參與する權能を與へられ、同時に政治に對して義務を負ふことゝなり、民意暢達、働き甲斐のある世の中になつたのであります。議會政治の觀念は昔から我國にあつたのでありまして、聖德太子の憲法十七條中にも「大事は獨り斷むへからす必す衆と與に論すへし」とありますが明治維新の際の五箇條の

御誓文の御趣旨に依り議會政治の根本方針が定まり、次て明治大帝の聖旨に從ひ世界に比類のない所の國體に基き西洋諸國の憲法を斟酌して我が欽定憲法が制定せらるゝに至つたのであります。申すまでもなく之は西洋文化を吸收した結果が政治に現はれた現象であります。

第二は我國の軍備であります。今日我が國の陸軍及び海軍は其の兵力量に於ては世界に劣るものがあるにしましても、志氣及び訓練に於て世界に卓越して居ることは、私から喋々申上げる必要はないのであります。併ながら我が陸海軍が世界の尊敬と驚嘆とを博して居る源をたゞせば、是も矢張り知識を世界に求めた結果に過ぎないのであります。日淸戰爭の際には、支那には鎭遠、定遠といふ鋼鐵艦があり、我が國には三千噸位の巡洋艦しかなく、その大砲の彈が定遠、鎭遠に當つても海に落ちるばかりであつたのです。そこで戰後專ら英國に倣つて新式の軍艦を造り今日では西洋に出來ないもの迄も我國に於て造る樣になつたのであります。陸軍も其の通りであります。明治維新前に和蘭から學んだ兵法で調練をし、品川に臺場を造り、函館に五稜廓を造つた我國は、明治維新後フランスから新式兵法を學び、次で獨逸に轉向し、今日は日本獨自の考案にて世界に於て驚くべき陸軍を作り上げたのである。然し此の發展は矢張り西洋から知識を吸收した結果であることは何人も否定し得ない所であると思ひます。

第三に一般的文化に付てお話をしたいと思ひます。昔は學問といふものは、坊主か公卿の仕事であつて、一般の人々といふものは、至て學問に暗かつたのです。從つて國民全體としての能率を上げることは甚だ困難であつたのであります。然るに明治維新以來範を外國にとつて、義務敎育の根柢を定めた爲今日に於ては學齡兒童の就學率殆んど百パーセントに近く世界に一か二かと云はるゝ位に發達し、國民悉くが若干の敎育を有つて居ると云ふ狀況であります。之が我國力が有ゆる方面に伸びる基となつて居ります。

第四に產業方面に付て申しますれば、昔は我が國は農業だけで自給自足をして居つたのでありますが、明治維新後社會一般が發達した結果、最早や昔のやうな簡單な仕掛けではいかぬことゝなつたのであります。そこで廣く知識を世界に求めて有ゆる方面に活動することゝなつたのです。試に若干の例を申上げます。先づ動力でありますが、石炭の時代は已に過ぎて今日は電氣の時代であります。我が國は幸にして水力電氣が非常に豐富である爲、產業の發展上好都合であります。此電力を利用して我が國の家屋の九割一分も電燈がついて居ります。是だけ電燈の普及して居る國は瑞西一國だけです。今より八十二年前にやつと國を開いた際には行燈で論語を讀んで居つた日本人が、今日では如何なる山間に於ても電燈のない所のない有樣は全く嘘のやうな話であります。之は或る程度迄日本の文化を語るに足るものと思ひます。次に海運に於ては今日我が國は四百萬噸の汽船を有つて居り、世界の三大海運國の一つになつて居ります。工業の方面に付ては棉花工業は慶應三年にイギリスのプラット會社から紡績機械を輸入して鹿兒島の磯村に据付けたのが始まりで、今日は一千萬錘の機械を有つて居ります。昨年の如きは世界に向つて二十七億平方ヤードの綿布を輸出して先進國たるイギリスを遙かに凌駕して居ります。最近日

本で發明した自動織機は一人の女工の手で四十臺を運轉することが出來ると云ふ優良なものであつて、慶應三年に吾々に紡績機械を供給したプラット會社がそのパテントを買つた位であります。ところが此の織機は餘り優秀である爲に、之が廣まると勞働爭議の基となるといふことで、未だイギリスでは使つてゐないそうであります。絹絲工業にしても我國は明治五年に佛蘭西人を雇ふて始めて上州の富岡で二百人の女工を養成して西洋式に絹絲を繰ることを習はせたのでありますが、今日は日本は世界第一の製絲國となり昨年の如きはアメリカ一國に三億二千萬圓の絹絲を賣つて居る有樣です。羊毛工業は明治十年に東京千住に製絨所が設けられて以來、次第に發展して、只今では濠洲一國から一年に二億圓許りの羊毛を買つて毛織物を製造し、日本國内の需要は十分に國産で間に合ひ、今や進んで印度、エヂプト等に迄我製品を輸出して居るといふ勢ひであります。もう一つ製鐵事業でございますが、是も明治十三年に陸中の釜石で始めて西洋式の製鐵事業を起し、一旦失敗したる後日清戰爭後に只今の八幡製鐵所を起したのであります。昨年の如きは三百五十萬噸の鋼材を造る位に發展しました。

然らば以上述べたるが如き產業の發展は如何にして生れたかと申すに何れも西洋から新知識を吸收して、吾々の獨特の能力を發揮せしめた結果に外ならないのであります。產業の發展に關し私は特に諸君に申上げて置きたいことがあります。それは今日の日本の產業は決して大工業だけで成立つて居るものではなく、半分位は家内工業に成つて居ります。之は日本獨特の家族制度を利用し小人數にて仕事をして居るのでありまして、勞働爭議と云ふものも自然に起り惡くゝ仕事も一家協力の結果成績が擧るのであります。例へば人絹織物にしても、私は福井で家内工業を見ましたが、十臺位の織機で仕事をし子供を負ふて機を織つて居る女工の傍で更に他の子供が遊んで居ると云ふ家族的氣分の漂つて居るのを發見しました。是が詰り西洋文化にプラス日本固有の文化とでも云ひ得るだらうと思ひます。兎に角有ゆる近代的產業の發展は西洋から智識を吸收した結果であります。

○歐米諸國の文化と日本文化との對照

明治維新以來西洋文化を吸收した結果、我國は有ゆる方面に於て偉大なる發展をしたことは以上お話申上げた通りであります。然らば日本文化今日の發展振を歐米諸國と比べてどうかと申すに、遺憾ながら及ばざる所多しと云ふ慨みがあります。先づ諸君の學んで居られる醫學に關することから始めたいと思ひます。外交官が醫學に關する批評をするのは生意氣であると云はるゝかも知れませんが、他山の石といふことが世の中にありますから、その意味にて私の言ふ所をお聽取あらむことを希望致します。私は昨今到る處に於て日本は偉いといふ聲を聞きますが、日本は果してそう偉いのであるかと云ふことに付て諸君に自問自答を願ひたいと思ひます。一國の文化といふものは、社會施設の如何に依つて可なり判るのでありますが、日本の社會施設を見るに、西洋に較べて及ばない點が澤山あるやうに考へられます。

私は東京に住んで居つて、何時も考へるのは宮城の周圍の御堀の穢いことであります。夏の日暮方に御堀の傍を散歩すると往々にして妙な臭ひが致します。世界の三大國の一と云はれる日本帝國宮城の附近が此の有樣であることは遺憾の至りであります。また東京に日本橋といふ名高い橋がありますが、あの橋の下を流れて居るのは清水ではなく、汚水であります。世界一流の都會たる東京の眞中を汚水が流れて居るのは恥辱です。東京の家屋の中には洗水式の便所は極めて少ない爲依然として白晝汚物を運搬するのを見掛けます。歐米諸國に白晝汚物を運搬して居る大都會はありませぬ。日本は多くの事柄に於て世界の一、二を爭ふて居りますが、肺結核に於ても乳兒の死亡率の多いことでも、正に世界に於て一、二を爭ふて居ります。一言にして蔽えば之は國民全体の無敎育を表明することになります。國民の壽命の短いことに於ても世界有數であります。日本人の平均壽命は西洋人の平均壽命に比して少くも十年短かい。人生五十年の中十年も短かいといふことは大問題であります。この日本人の壽命の短かいといふことは人種的關係もありませうが、社會的施設に幾多の欠陷があることは重要なる原因と思ひます。學問に付ても近來頻りに日本の學問は世界第一であるといふことを聞きます。殊に醫學者は日本の醫學は世界第一である、アメリカの醫學の如きは問題ではない、獨逸の醫學丈は先づ相當なものであるなどゝいふて居ります。（笑聲）つら〳〵考て見るに我國は人文科學方面に於て、未た世界を驚かすやうな學說といふものが發表せられたことはありませぬ。自然科學方面殊に醫學に於ては可なりの成績を擧げて居ります

ますが、是も世界に較べてどうであるか。私の素人量見から申上げますと、日本の醫學者にして世界に向つて氣を吐いたものは血清療法に於ける北里博士、赤痢菌を發見した志賀博士、アメリカ育ちである爲日本で兎角の批評があるが、熱帶病原を研究した野口博士、それから此の席で申上ぐるのは如何かと存じますが病理學に於ける當大學の川村博士位なものと思はれます。（拍手）去りながら彼の傳染病原說を發見した佛蘭西のパスツール、結核菌及びコレラ菌を發見した獨逸のコツホ、外科治療に消毒法を發見した英國のリスター、細胞病理に於て新天地を啓いた獨逸のウヰルヒヨウ等に比べますれば前に述べました我國の四博士の業績は少しく劣るのではないかといふ氣が致します。世界にノーベル賞といふものがあります。其の選定振に付いては公平を缺くとの議論がありますが、我醫學界より未だ一人のノーベル賞候補者すらも出したことのないのは甚だ物足らぬ感じが致します。將來此の席に居られる諸君の中から必ずノーベル賞受領者が出るだらうと思ひます。病院經營といふことに付いても、此機會に一言し他山の石を提供したいと思ひます。實際我國は醫學の方に於ては世界に向つて氣を吐いて居りますが病院經營に至つては先づ言語道斷と云つても過言ではなからうと思ひます。東京の帝國大學の病院を見まするに其の不体裁驚くべきものがあります。患者の病室に於てだらしなく飮食を許し、だらしなく面會を許すが如きはその一例であります。之は患者に對し不親切なる遣方であつて、醫者の責任上重大なことであると思ひます。患者に對し嚴格であるが爲評判が惡くなつて、入院患者が減ることなどは問題

ではないと思ひます。それから病院に入ると廊下に火鉢が行列をして尤も悪性な炭酸瓦斯を發生して居るのも見掛けます。之は見舞人に差出す御茶を作る爲と思ひますが、此の如きことは避けたいと思ひます。病院經營者に信念と見識とを需めたいと思ひます。看護婦に付いては犧牲心の強い點に於て親切なる點に於て日本の看護婦は世界第一であります。然し合理化に於て缺くる所があるやうです。看護婦は犧牲心や博愛心だけではいけませぬ。どうしても合理的にならなければならぬと思ひます。斯く論じて參りますれば醫學を研究して居られる諸君は徐程お考へにならなければなりませぬ。唯我獨尊の氣分ではなりませぬ。學問に於ても實地に於ても、どうか大に御奮發を願ひたいものであります。次に建築技術に付いて申述べたいと思ひます。今日も信濃川と新川の分れる所を拜見して實に結構なものと考へましたが、實際我國の建築にしても土木にしても未だ世界に誇る何物もないと存じます。法隆寺や正倉院の如き古い建物の外には世界に誇るに足るものはないやうであります。東京に丸ビルがありますが、あんなものは有名なる建物の部類には入つて居りませぬ。(笑聲)紐育のエンパイヤー、ビルデイングは高さ千二百六十尺、八十五階あつて、此の中に働いて居る者は約五萬人であります。最近サンフランシスコからオクランド迄海を越えて鐵橋を造つたが工費約二億六千萬圓、長さ八哩四分ノ一、水面からの高さ二百十八尺、之が二段に出來て居つて上に自動車道路が六條、下にトラック道路が三條電車道が二條あります。之などは確に世界に誇るに足るものと思ひます。交通機關に付て見まするに、我國の飛行機は此の正月にヤット臺灣迄定期航空路が開けましたが、飛行機が臺灣迄飛ぶといふことは問題でありませぬ。アメリカではサンフランシスコからマニラ迄八千哩を一週間に飛んで居り、此の十月から定期に旅客を運搬することになつて居ります。之は香港まで延長することになつて居りますから、米亞兩大陸は一週間で旅行が出來る譯であります。汽船に付て見まするに太平洋を通ふ我が優秀船例へば秩父丸、淺間丸、龍田丸は二萬噸級で相當速力も出て、比較的良いのであります。所がフランスはノルマンデーといふ七萬八千噸の船を最近に進水せしめ、イギリスは之に負けないで、クキン、メリーといふ八萬噸の汽船を造り、その船は一時間三十ノットの速力で太西洋を四日と數時間で横切つて居ります。汽車の設備に付て申せば最近東海道の急行列車燕に始めて冷房裝置をした食堂車がたつた一つついたことが新聞に非常なニュースとして報ぜられて居りましたが今から四、五年前私が米國に居つた時分、已にワシントンからシカゴ迄食堂車のみならず全列車に冷房裝置が出來て居り、外は九十度位の熱さでも列車の中は七十度位でありました。斯る點も餘程違ふ樣に思ひます。日本は昨年中に僅かに三千臺の自動車を造つたに過ぎませんが、アメリカに於ては四百萬臺、イギリスに於ては四十一萬臺を造つて居ります。またアメリカ人は五人に一臺の自動車を有つて居ります。

詰り斯ういふやうな譯で、社會施設にせよ、學問にせよ、將又建築技術、交通機關にせよ、我國と歐

米諸國との間には殘念ながら未だ可なり開きがあるのであります。此の開きのあることは寧ろ當然である。我々日本國民は八十年の間に西洋諸國が何百年かゝつたことをやつたのであるから。そこに偉さがあるのである。唯だ我々はその開きのあることを自覺しなければならぬ。世の中に實つた稻は穗を垂れるといふことがありますが、吾々は偉くなつたにつけても益々謙讓の美德を發揮し己を空ふして此上共西洋の長所を採つて我々の天分を磨くといふことを考へなければならぬ。人の長所を採つて何が惡いか、それを私は特に諸君に申上げたいのであります。

○國運の發展と西洋文化の吸收

段々長くなりましたが、まだ時間がありますから、結論の意味合を以て、我が國運發展上西洋文化吸收の必要と云ふことに付て私の考を申上げて見たいと思ひます。先刻もお話致しました通り、近年我が國運が非常な勢ひを以て躍進しつゝある反面に於て國民的意識といふものが强くなりその結果動もすれば自我の念、高慢の念が高まりつゝある樣であります。これは私の深く憂えて居るところであります。學者に會ふと日本の學問が一番偉いと云ひ、技術者に會ふと日本の技術は一番であるといふ有樣であります。到る處己惚れが過ぎるやうです。昨今各方面に於て西洋文化にかぶれてはいかぬといふ聲が傳えられて居り、先刻學長から承つた所に依りますれば、文部當局に於てもその點に力を注いで居らるゝ樣であります。明治維新の際當時の政治家は本當に死を決して萬事手遲れになつて居つた我國を成べく早く進ませやうと努力したのであります。從て熱心の餘り前後を考へずに無闇に西洋文化を取入れたといふ慨みがあつたのであります。その點は寧ろ同情を以て見なければならぬと思ひます。決して今日之を輕々しく批判すべきものではありませぬ。我國の歷史の大家たる三上參次氏は先年議會に於て演說をせられ明治初年には日本人は自分の足が靴に入らぬ時には踵の骨までも削つて入れたやうなものであつたと云はれましたが、實際あの時代には靴が足に合はぬ時は靴を直せばよいのを自分の踵の骨を削つて靴に合せるやうに西洋文化を崇拜して居つたのであります。甚だ行過ぎたことであつたと思はれます。然しながらその反面に於て次の如き事實を見逃してはならぬと思ひます。德川鎖國時代二百年間と云ふものは恰も我國の周圍に固いコンクリートの堤防を築いて西洋文化の流入を防いで居つたやうなものであります。そこへ明治維新の改革に依て此の堤防が忽ち缺壞し、西洋文化といふものは恰も洪水のやうに滔々として入つて來たのであります。その洪水の入つて來る時に凡ゆる不潔物も一所に入つて來たことは誠に止むを得なかつたのです。今から見れば、なぜあの時に良いものだけを取らなかつたかと云ふ議論も起りませうが、急激な洪水の折に之はいかぬ、あれはよいといふやうな選擇は云ふべくして行はれ得るものではありませぬ。隨つて好ましからざるものも入つて來たことは全く致方がなかつたのであります。然し大きな眼で見ると、あの西洋文化といふ洪水は極めて肥沃なる土を運んで來て、之を我が固有の日

本文化といふ土壌の上に徐ろに沈澱せしめ、此の兩者が相融合して今日の日本文化を造つたものであると考えられるのであります。その根本を忘れ、徒に西洋文化を罵り、西洋文化を危險視し、西洋文化を排斥せんとするが如きことは言語道斷沙汰の限りと申す外ないと思ひます。私は日本國發展の歷史に顧み益々西洋文化の長所を取入れ、大日本國を愈々大ならしむることは、我々の進むべき目標でなければならぬと確信するものであります。同時に我々は曾に我國を大ならしむると云ふこと以外に、我國は東洋文化の眞髓を捉へて來た國であると共に西洋文化を採つて來た國である關係上、東西兩文化を融合し更に新たなる文化を建設するに最も適當な國であると考えます。我々は此の大なる抱負を以て、東洋文化といふものに西洋文化を交へ、よく之を練り合せてこゝに新なる文化を造り、此の新文化に依り世界の發達と人類の幸福に貢獻すると云ふ大きな氣持で進まなければならぬと思ひます。さて斯る考からして我々は如何なる覺悟を以て進むべきかと云ふことを綜合的に繰返して申上げて見たいと思ひます。

第一は我々日本國民は益々知識を世界に求め科學の發達といふことを心掛けなければならぬ。と斯う思ふのであります。今日は日進月歩の世の中であります。少しボンヤリとして居ると、忽ち立ち遲れになるのであります。躍進日本を益々進ませる爲には、我々は良く眼を開いて世界を眺め、新らしき智識を吸收し我國の文化を進め、學問を進めて行くことが必要であります。殊に科學の方面に於ては國家として大いに費用を投じて研究を進めなければならぬと存じます。アメリカに行つてもフランスに行つても立派な科學研究所といふものがあります。日本にもあるにはありますが、未だ概して規模が小さいと思ひます。モット〳〵國費を投じて科學の研究奬勵に力を注ぐ必要があらうと思ひます。その研究が土臺となつて始めて總ての事が進んで行くでありませう。我々日本國民は獨創の力を以て前人未開の境地を拓くことを理想としなければなりませぬ。

第二に我々日本國民は益々東洋文化の探究に努力すると共に東洋諸國の文化發展に協力しなければならぬ。實際我國は東洋文化の淵源を探究する上に於て極めて適當な地位に居るのであります。我々は二千年以前から亞細亞大陸より文化を吸收して居るのであります。隨つて今日迄得たる智識を利用して此の上とも、東洋文化の眞髓を捉えて吾々の文化を進めると共に之を世界に供給するといふことに力を盡すことが適當ではないかと思ひます。殊に我々は支那及滿洲國の文化を進めることに付て、協力する義務があらうと思ひます。我國は明治維新迄文化的に非常に支那の厄介になり、その後西洋文化を吸收して今日の立派な文化を造つたのでありますから、此の造り上げた結果といふものを支那及び滿洲國に與へて、その文化發展を助成しなければならぬ。昨今支那問題に就いては世上種々なる議論があります。實業家は支那及滿洲國から大いに原料を採らなければならぬ、また商品を賣らなければならぬと云ふて居るし、また一部極端な人々は支那の領土内に益々我勢力範圍を發展せしめなければならぬといふて居る樣であります。併しながら吾々は隣邦支那及滿洲國を見る場合に唯だ原料の供給、商品の販賣といふ

點のみに着眼せず、此等兩國の文化を高め東洋の三國提携協力して歐米の何れにも勝る立派な文化を造ると云ふ氣持で進まなければならぬと思ひます。

第三に我々日本國民は萬邦無比の國體に基いて立憲政治の確立に力を注がなければならぬ。我國の憲法は西洋諸國の憲法と異り、所謂欽定憲法であり、明治大帝は憲法發布の際、神前に於て『現在及將來に臣民に率先し此憲章を履行して愆らざらむことを誓ふ』と奏せられたる通り永久に存續すべき不磨の大典である。此の憲法に依り定められたる議會政治なるものは、政治機構として飽迄維持しなければならぬものであつて、其點は何等論議の餘地ない次第である。昨今我が國に於て政黨の腐敗を攻撃し、議會政治を以て外來の思想であると罵り、竊に獨裁政治を謳歌する者があるやうであるが、之は甚だ歎かはしいことであります。政黨の腐敗は要するに國民の政治能力の缺陷から來るものであつて制度の惡い爲ではない。我々國民にして議會政治といふものに對し本當の理解が進むならば政黨の腐敗も自然に直るものと考ます。獨裁政治の謳歌は彼のムッソリニー、ヒットラーが一見成功して居るが如き外觀に捉れて起つたものであらうが、思はざるの甚しきものである。ムッソリニーは何故獨裁政治を行なつたかと申しますと、歐洲戰爭後伊太利は非常に財政的に窮乏し、其の虚に乘じて共產黨が跋扈し、王室にまで累を及ぼす形勢となつた爲、萬止むを得ず非常手段に出て以て今日に至つたのであります。ヒットラーの場合も略ぼ同樣であります。獨逸は戰後極端に疲弊し、之又共產黨の跋扈に依り如何とも致方なく、遂に今日の如き事態を作つたのであります。私は歐洲大戰後日本帝國初代の代表者として伯林に乘込み當時の慘憺たる獨逸の姿を眼の當り見た一人であります。カイザーが途方もない野心を起し軍閥に引ずられて、あの無暴な戰爭をやり遂に失敗して罪なき七千萬の獨逸人を路頭に迷はしたのであります。あの當時には往來を歩く女は帽子をかぶらず、子供等は營養不良の爲青ざめた顏色をし、病院の看護婦が紙で拵らへた着物を着て居ると云ふ風であつた。私は偶々指を怪我して尾見博士といふ外科の大家の世話になつたが治療材料が不完全であると云ふて悲まれたことを記憶して居る。ヒトラーの獨裁政治の生れたのは止むを得ない譯である。要するに獨伊に於ける獨裁政治なるものは、全然特異なる狀勢の下に起つたのであつて、輕々敷之を謳歌するが如きことは甚だ取らざる所であります。獨裁政治の缺點は多々ありますが、言論の自由のないことなどは第一に數えなければなりませぬ。獨り言論の自由がないのみならず、信仰、學問の自由までも奪はれて居る場合があるのであります。獨逸に於てはユダヤ人排斥の結果彼の有名なアインシュタイン博士の如き孤影消然として母國を去りアメリカに於て研究を續けて居る次第であります。その他獨逸を去つた各方面の學者が多數あります。斯ることからして今後二十年、三十年後には獨逸の學問は追々聲望を失ふに至るだらうと云ふ觀察も行はれて居ります。獨伊の現狀は決して謳歌するに足らぬと思ひます。要するに文化の發達、國力の增進と云ふものは明朗な天地に於てのみ見ることが出來るのでありますから、我々日本國民は立憲政治の確立、民意の暢達と云ふことに力

を注がなければならぬと信じます。

以上を以て本日の講演を終ることに致しますが「明朗」と云ふことに付て最後に一言を附加へたいと存じます。それは諸君に對する苦言であります。我國の學生は頭腦の優秀なこと正に世界に於て一、二を爭ふものと思はれますが、同時に日本の學生程神經過敏なものは少なからうと云ふ感じを有つて居ります。日々の新聞を見るとつまらぬことで人と喧嘩をし、ラブが通らぬと云ふては心中をし、學校の成績が悪いといふので行衞不明になつたり、自殺をすると云ふことが載つて居ります。之は總て神經過敏の結果から來るのです。私は先刻明朗なる天地に於てのみ文化が發達し、國力が增進すると申しましたがその明朗なる天地なるものは、明朗なる國民に依てのみ造られ得るものであります。私は學生諸君に向て大日本帝國を背負つて立つものは明朗でなければならぬと切言したいのである。學問は少し位出來なくても構はぬ。身體を丈夫にして朗らかな氣持で勉强して頂きたい。試驗勉强など、云ふ遣方は本當の學問の仕方ではない。私は御覽の通り身體は小さいが、健康に於ては十分の自信を有つて居ります。中學時代に不勉强の爲四年生で落第しましたが別に後悔して居りませぬ。釋迦に說法でありますが、學問よりも先づ健康に御注意を願ひたい。醫者の不養生といふことがあります。（笑聲拍手）

昭和十二年一月八日印刷
昭和十二年一月十二日發行

文部省所藏

發行者　新潟醫科大學
新潟市西堀前通四番町七三九

印刷者　池田龜之助
新潟市西堀前通四番町七三九

印刷所　文明堂印刷所

684
378